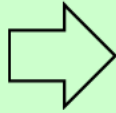


無代かき栽培と田畑輪換による空知型輪作体系の実践 ～（農事法人）セレスコーポレーション（武田 貞行 氏）～

経営体の概要

事業実施前：昭和55年
基幹作物：水稻、小麦



事業実施後：令和元年
基幹作物：水稻、小麦、大豆、てんさい
飼料用米

経営面積：8.0ha

経営面積：108.0ha(5戸共同)

取組の経緯と経営転換のポイント等

水稻を中心とした経営を行っているが、昭和50年代に本事業による幹線排水路の整備と関連事業によって、平成10年頃より湛水被害が解消され農業機械の近代化が進む一方、高齢農家の離農者の増加により、その離農地を継承することで規模拡大を進め、平成28年には農業法人を設立。土地利用型の経営体として、近年は水稻の無代かき及び直播（食用、飼料用）を導入し省力化を図るとともに、水稻と転作作物の田畑輪換を実践する空知型輪作体系を確立している。

営農改善のポイント

①作物の変化

本事業及び関連事業による基盤整備によって、水稻は全て無代かきを導入し、直播の割合は35%に達している。転作作物（小麦、大豆）は連作障害回避と所得向上を図るため、田畑輪換が容易な乾田直播や無代かきと組み合わせた空知型輪作体系を実践。令和元年からはてんさい（直播）を輪作体系に導入。



てんさいの作付（転作作物）

②単収・品質の向上

基盤整備による排水改良と営農技術の確立によって、水稻は良食味米「ゆめぴりか」の移植栽培や、直播栽培に適した「大地の星」を作付けし、平均単収600kg/10aと高水準を達成。小麦は「きたほなみ」やパン製造に適した「ゆめちから」を作付けし、平均単収480kg/10aと高水準を実現している。



自動操舵付田植機の利用

③機械・設備の整備

トラクターは自動操舵付3台、GPSガイダンス付4台の稼働とともに、自動操舵付田植機の導入などICT技術を活用して作業の効率化を実現している。また、ラジコンヘリによる水稻の共同防除を行い、作業の省力化による低コスト化を実現している。



ほ場の均平作業（GPSガイダンス付）

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：北海道石狩郡新篠津村、岩見沢市（旧栗沢町、旧北村含む）、美唄市、赤平市、三笠市、砂川市、空知郡南幌町、同郡奈井江町
受益面積：27,027ha
事業期間：昭和54年度～平成23年度（空知中央地区）
平成10年度～平成25年度（空知中央用水地区）
事業目的：用水改良、排水改良、畑地かんがい
主要工事：頭首工2箇所、揚水機5箇所、用水路233.5km、排水路63.3km、調整池1箇所

位置図（北海道）



空知中央地区
空知中央用水地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部
農業振興課 調整係
電話：011-709-2311
(内線5684)

(令和元年度調査時点)